

荒川下流分散避難ワーキンググループ（第3回）

議事要旨

日時：令和4年2月15日（火）15:30～17:00

場所：Web 会議（Teams）

1. 開会あいさつ

荒川下流河川事務所 早川事務所長

- ・今回は時間軸を考慮した分散避難について議論したい。
- ・この WG の成果は荒川下流タイムラインに関わる自治体等に共有するため、忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 前回のふりかえり

事務局より説明

3. 「分散避難のあり方と留意点（中間とりまとめ）（案）」について

事務局より説明

◎資料1：感染症を考慮した水害時の分散避難のあり方と留意点（中間とりまとめ）（案）

[アドバイザー・構成員等から主な意見]

- ・住民目線での、できそうな避難が言葉になって現れてきた。
- ・これを活かして訓練していくことも重要である。
- ・今回のとりまとめ案では、「時間軸」という言葉がでてきたので、これについて議論を深めたい。

[座長から主な意見]

- ・感染症蔓延下での避難を考えるときに、全国の自治体が使えそうなものになる。
- ・1月に起きたトンガの火山による津波では、濃厚接触者や罹患者がどこへ避難したら良いのかという状況が実際におきていた。こうしたことも議論を深めていきたい。

4. 「荒川氾濫時に区民の命を守る分散避難に関する区民の意識調査（国土交通省・足立区合同（案）」について

事務局より説明

◎資料2：荒川氾濫時に区民の命を守る分散避難に関する区民の意識調査（国土交通省・足立区合同）（案）

[アドバイザー・構成員等から主な意見]

- ・区民の意見が重要であり、回収率の向上について様々な方法を検討している。Web アンケートを活用する必要がある。
- ・住民も感染症と避難については意識が高いと思うので、行動マニュアルができるというようなフィードバックが見えたほうが回収率向上につながる。

- ・アンケートを実施することで、関心が高まる。

[座長から主な意見]

- ・感染症が拡大している中で、危険な状態になっても自宅にとどまるという人もいる。こうした人がアンケートから分かるよう、選択肢を加えてほしい。
- ・回収率向上について、アイデアがあれば事務局に伝えてほしい。

5. 各地域における円滑で実効性ある分散避難の推進 対策・支援策（案）等について

事務局より説明

◎資料3：各地域における円滑で実効性ある分散避難の推進 対策・支援策（案）

[アドバイザー・構成員等から主な意見]

- ・避難は外からサポートができるケースと、自分でどうにかしなくては行けないケースがある。自分や家族が事前にすべきことを時系列の最初に入れるべき。
- ・自分では頑張れない人をどう支援するか。支援者もこの時系列で考えることが必要である。
- ・発災後については、その場で臨機応変に対応してほしいというメッセージもあって良いのではないか。
- ・安全に避難できるような環境整備や避難経路などのハード面についても、進めていく必要がある。
- ・時系列については、避難場所によって遠いところ・近いところがあり、今後これを考える必要がある。
- ・東京都としてどのような対策支援ができるか検討していきたい。
- ・縁故避難などを検討している住民には、ひとつの方法がダメな場合でも他の選択肢もあるということを示す必要がある。
- ・避難形態に様々な名前が付いているが、全国的に同じ名前とローカルルールのような名前を分けて示す必要がある。

[座長から主な意見]

- ・現在の資料には記載がないが、支援策を考えたときに役割が重要。（国、都、足立区、住民の役割について）
- ・車避難の利用限界指標も今後検討していきたい。

6. 今後の予定

事務局より説明

7. その他

事務局より説明

- ・荒川下流分散避難検討ワーキンググループ（第2回）議事要旨の公開について提案し、一部修正のうえ了承された。

8. 閉会あいさつ

足立区危機管理部総合防災対策室 吉原室長

- ・今回は色々な意見をいただいた。引き続き、皆様の意見を取り入れブラッシュアップしていきたい。

以上